

お父さんは王様

街道 かいどう 羽空 はくく

「おい、はく。うでもんでくれ。」

これがはくのお父さんの口ぐせです。少し前までのはくは、ああ、またか。いやだなあ。と思っていました。でも今はちがいます。

はくのお父さんは大工さんです。毎日はくがおきる時間には仕事に行っていて、帰ってくるのは、はくが夜ご飯を食べた後です。

はくがしゆく題をしていて、わからない問題があると、お父さんも、

「そんな、むずかしい問題お父さんも小学生の時はお父さんからわかったわ。」

と、笑うようなお父さんです。でもはくがお父さんのお仕事のげん場に行った時、とても重そうな木の材料をかるそうにかたにかついで仕事をしていました。たて前を見に行った時は、屋根の高さの十センチぐらいの柱の上を材料をかつぎながらスイスイと歩いていて、とてもおどろきました。はくだったら、こわくてのぼることさえできないと思います。お客さんや、二しよに仕事をしている人に、

「とうりよう。」

と呼ばれ、真剣な顔で仕事をしているお父さんは、家にいるときのお父さんとは全然ちがう顔で、とてもかっこよく見えませんでした。はくのお父さんはすごいんだなあと思いました。

はくのお父さんは、おふろでシャンプーをする時、左手一本だけであらいます。はくはずっとそれをふ思ぎに思っていました。お父さんは生まれる時に、エルブまひという病気になってしまい、右手が少し自由だと聞きました。でもそんなことも感じさせないくらい、お仕事をがんばっていて、とても立派なお家をたてます。休みの日にはキャッチボールの相手もしてくれます。冬になるとスノーボードも教えてくれます。でもやっぱり仕事をしても、キャッチボールをしても、右うでがつかれてしまおうだと思えます。はくがうでをマッサージしてあげると、

「あー、気もちよかった。はく、ありがとう。」

と、笑顔で言ってくれます。マッサージするのははくもつかれるけど、マッサージをしてあげて、お父さんうでのつかれがとれるのなら、これからもしてあげようと思います。

今ではお父さんが帰ってくる時、

「あつ、王様が帰ってきた。」

と、妹とうでのマッサージをするじゆんびに入ります。はくたちの家族のために、一生けんめい仕事をしてくれるお父さんは、はくのお父さんです。

お父さん、いつもありがとう。